1　研究構想図

本校の教育目標

○明るく元気な子
◎ねばり強くやり通す子
○深く考える子
○なかよく助け合う子

児童の実態

・文章構成や重要な言葉を意識して読むことができる。
・要約や要旨をまとめたり、自分の考えをもったりすることが苦手な児童もいるが、友達との関りを楽しむ児童が多い。

国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する。

（1）　日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
（2）　日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
（3）　言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

研 究 主 題

関わり合い、主体的に学び、深い学びを実現する児童と教師
～学習過程「共有」場面における指導の工夫（説明的文章）～

目指す児童像

低学年
互いの思いを分かち合い、感じ方や考え方を認め合える子

中学年
自分の考えをもち、共有したときにいろいろな考えや感想があることに気付ける子

高学年
他者の考えの良さに気付き、他者の考えを取り入れる子

研 究 の 軸

「共有」における具体的な手立てを明らかにして、他教科にも生かせるような研究とする。

授業実践

○学期ごとの説明文の単元計画の検討
◎単元のゴール設定
◎「共有」における具体的な手立て
◎深い学びを目指す児童と教師の関わり方

言語活動の日常化

◎「声のものさし」「話し方・聞き方名人」の教室掲示
◎音読・暗唱
「今月の詩」（低・中学年）・百人一首（高学年）の取組
◎読書
「えほんの木」（全学年）の取組